

## 1. [子育て支援について]

大東町会場（阿用交流センター）

Q2：子育て支援について、1つは子どもの医療費助成が義務教育終了まで無料というところが1市7町村あるわけだが、今後の雲南市としての考え方としてどこまで持っていられるのか。子育て中の皆さん方からは義務教育終了までの、中学卒業までの無料化を求める声はかなり多いが、そのあたり雲南市が「子育てするなら雲南市」という表題でがんばっていただいているので、今後の見通しはどのように考えているのか。それから、もう1点は認定子ども園について、木次子ども園が開設されて、今年度からスタートしているが、待機児童の解消になったのか、今、待機児の子どもたちはいないのかどうか、それから今後アンケート調査をして、計画策定をしていくということだが、一体的な機能を持っているということだが、木次のこども園は施設としては一体的になっていないので、今後の考え方を聞かせてほしい。

A：子ども医療について義務教育が終わるまでの考えはどうか、見通しはどうかというご質問をいただいた。この事業について制度拡大に向けては、基本的に義務教育終了までということを中心に検討してきた。検討する間にいろいろと財政等も検討したところで、中学卒業までいくと単独事業費だとだいたい1億円ぐらいかかる見込みがはじき出された。今回、第1弾としては小学校卒業までということで決定した。今後、医療費の額等も見ながら検討していくが、いつからとは言えないができるだけ早い段階で義務教育までできるように検討していきたいと考えている。（市民環境部長）

A：2点目の認定子ども園に関してのご質問について、木次こども園を今年の4月から開園したが、待機児童の関係は説明の中で申したように、木次こども園の開設により木次こども園では昨年よりも0～2才児を13名多く受入れができたので、一定程度の成果があった。しかし、最近の社会情勢等の変化によって、保育ニーズが非常に高く、現在のところも希望の保育園に入所できない方がいる状況である。今後のことだが、新しい制度が平成27年4月から始まる。そのために今年度25年度に子育て家庭の皆さんの保育に関するニーズ・要望のアンケートの調査をして、把握する。それをもとに、26年に認定子ども園が雲南市は足りるのか足りないのか、保育所はどうか、幼稚園はどうか、あるいは小学校になったら放課後児童クラブがあるが、その量が足りているのか、今後どうなるのか、そういったことを含めた計画を策定する考えである。その中で基本的には認定子ども園をどのように増やしていくのかということも検討することになると思う。一体的にということだが、現在の木次こども園は元の木次保育所と木次幼稚園を、場所は若干離れているが、一体的な運営を行うということで運営をしている。今後の計画にもよるが、そういった形で子ども園を設置する可能性もあろうかと思っている。施設全体として一ヶ所の建物でということは、既存の施設では足りなければ新たな施設も建設するということになると思う。現時点でどこということとは言えないが、今後その辺も検討していく考えている。（健康福祉部長）

要望：ぜひ、子育て支援に力を入れていただかなければならないんじゃないかと思う。皆さん方も、市の方もそのように考えていると思うが、やはり「子育てするなら雲南市」この言葉にきちんとこたえていただきたいと思っている。今後の検討、検討という言葉が多かったが、ぜひ、子育て支援していただいて、本当に子どもを産み、育てて、安心して暮らせる雲南市にしていきたいと願っている。